

1. 博多湾における *Gephyrocapsa oceanica* の大量発生事例

環境科学課 池田 嘉子

第 34 回九州衛生環境技術協議会

2007 年 4 月、博多湾および周辺海域で *Gephyrocapsa oceanica* の大量発生があった。2004 年につづき、2 回目である。大量発生の要因を検討するため、過去 10 年（1998～2007 年）の 1～4 月の博多湾水質調査のデータおよび気温のデータを比較したところ、2004 年と 2007 年は、大量発生がはじまった 3 月に COD、全りんが低く、塩化物イオンが高かった。また、気温が高く、降水量が少なく、全天日射量が多いという共通性がみられた。不溶性カルシウムの量を測定したところ、*Gephyrocapsa oceanica* は博多湾全体に分布しており、平均濃度は 0.7mg/L だった。博多湾全体では不溶性カルシウムは 1,000t、不溶性炭酸カルシウムにして 2,600t であり、これは二酸化炭素にして 1,100t に相当していた。